

プロジェクトコーナー

有力者の思惑に翻弄される事業

—PIHS との協働で進める健康な村づくり—



水がないという理由でトイレ建設の対象からはずされたトゥヤンでしたが、実はトイレが作られていると聞き、11月の出張で訪問してきました。

ココヤシの葉や竹の壁に囲まれて陶器製の青い便器が鎮座しているだけですが、緑色のあざやかな葉をきれいに編みこんだ壁もあり、さながらトイレコンテストのようでした。医療拠点ヘルスポスト脇にもモデルトイレが設置されています。

問題の水はというと、5月の統一選挙のあとで、当選した議員からポンプが寄附されたそうです。この辺りの地下水は海老養殖の拡大で海水が混じるようになり、飲料には適しませんが、洗濯やトイレには十分使えます。

喜ぶトゥヤン住民ですが、当初の計画対象シギルがなぜ外れたのか、PIHSに確認しました。

河口部にあるシギルは、4年前の洪水で一部住民は移住を余儀なくされました。その時、好意で土地を提供してくれた地主が、半年ほど前、キャッサバ農園やタピオカ澱粉工場建設を計画しているアメリカ及び国内資本2社から土地譲渡を持ちかけられて、同意してしまったというものです。住民は立ち退かざるを得なくなってしまいました。

トイレどころでなくなったシギル住民のために、PIHSも地主と交渉を続けていますが、時間がかかりそうです。助成機関・今井記念海外協力基金には諸事情を説明して、シギルからトゥヤンへの変更許可をいただきました。

昨年10月末のバランガイ選挙結果も本事業に影響を与えています。1年前、対象に含めながら、渡船が壊れて実施できなかったバルット島を、今年度こそと再度巡回診療対象に含めました。しかし、新バランガイキャプテンからの許可が出ないのでPIHS医療チームは12月時点で島に入れずにいます。ニーズが大変大きいバルット島では、多くの住民、特に母子がPIHS診療チームを待っています。これも現在PIHSが交渉継続中です。

診療車寄贈プロジェクト報告

皆様からのご寄付で診療車を寄贈できました。
ご協力に感謝します！

—昨年ミンダナオに滞在し、貧しい村々を巡回して無料診療を続けている現地NGO／パササンバオの毎日を見聞きしてきました。貧しいことは、病院へ行くことはおろか医薬品を買うことさえままならないことを意味します。日本人である私には想像を超える悲惨がそこにありました。それらのコミュニティへ、ナプサさんを代表とするスタッフが、たった一台のバイクに相乗りで連日駆け巡っていたのです。この診療車によって、これからは熱暑も大雨もしのげ、患者さんや医療品も運べると、現地では大喜びでした。

支援を申し出るにあたり、直接的な金銭による援助ではなく、NGOが自立できるよう診療車の寄贈を選びました。おかげさまで皆様からのご寄付により、2007年8月、1998年製日産バネットを、HANDS副理事九島さんの立会いの元に購入することが出来ました。この時点で全額分の寄付は集まっていませんでしたので、一時会員が立て替えました。ここに会計を報告いたします。

<会計報告>

診療車代	： 18万ペソ+初年度維持費 7.8万ペソ
	＝ 690,763円
寄付収入	： 市民・会員寄付 19口
	＝ 682,270円
イベント会場寄付	＝ 8,493円
計	690,763円

なお、HANDSとパササンバオとは覚書を交換して、診療車が有効に活用されるよう報告を受けるなどを決めました。

<診療車プロジェクト担当：渡辺せい子>



活躍が期待される車